

ある信者に信者でない妻がいて、その妻と一緒に暮らすことを望んでいる場合は、離縁してはいけません。また、ある女に信者でない夫がいて、その夫と一緒に暮らすことを望んでいる場合も、離縁してはいけません。信者でない夫は、妻によって聖なる者とされ、また、信者でない妻は、夫によって聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なる者です。しかし、信者でない相手が離れて行くなら、離れるに任せなさい。こうした場合、信者である夫あるいは妻は、結婚に縛られてはいけません。神は、平和な生活を送るようと、あなたがたを召されたのです。（Iコリント7：12c～15）

パウロは結婚に関して、男は女に触れないほうがよいが、淫らな行いを避けるために、男は妻を、女は夫を持ちなさいと述べてきた。性的欲望を制御できないのなら、結婚しなさいと言っている訳で、結婚が持つポジティブな面は評価していないようだ。パウロは、自分のように独身であることがよいと言っている。既婚者に関して、妻は夫と別れてはいけない、夫は妻を離縁してはならない。これは、主の命令であると厳しく戒めている。

パウロは「その他の人たちに言います」と、信者と未信者の夫婦関係について述べている。「ある信者に信者でない妻がいて、その妻と一緒に暮らすことを望んでいる場合は、離縁してはいけません。また、ある女に信者でない夫がいて、その夫と一緒に暮らすことを望んでいる場合も、離縁してはいけません。」夫婦の間で、片方が信者で、片方は未信者の場合、一緒に暮らすことを望むなら、離婚してはいけない。その理由は、「信者でない夫は、妻によって聖なる者とされ、また、信者でない妻は、夫によって聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なる者であるからである。未信者の夫、妻は、信者である妻、夫によって聖なる者とされている。子どもも聖なる者である。パウロは、信者になれば、神の聖に与って聖なる者となっているので、未信者の人をも聖なる者にするとする。

パウロは、ガラテヤ書2章16節で「しかし、人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、ただ、イエス・キリストの真実によるのだということを知って、私たちもキリスト・イエス信じました」と、キリストの真実（十字架と復活）によって全ての人が行いに関りなく、義とされていると書いている。信者、未信者を越えて、既に聖とされているという福音理解ではないか。ある婦人が受洗準備の折に、「私は洗礼を受けて、救われますが、夫はどうなるのでしょうか」と聞かれた。私は、「ご主人もキリストの十字架と復活によって、既に救われています。あなたは救われていることを知って応答し、洗礼を受けるのです」と言った。彼女は納得されたようだった。私は洗礼を受けなくとも、キリストの真実によって全ての人「義」とされていると信じている。パウロは信者の聖が未信者をも聖とすると説いて、信者の光栄ある務めを語っている。ところが、「信者でない相手が離れて行くなら、離れるに任せなさい。こうした場合、信者である夫あるいは妻は、結婚に縛られてはいけません。神は、平和な生活を送るようと、あなたがたは召されたのです」と言う。離れて行くのなら、別れなさい。結婚に縛られることはない。信者、未信者の間で諍いが起こるより、平和で暮らすために別れなさい。そして、妻が夫を救えるか、夫が妻を救えるかではなく、救いは神から来るので、結婚生活に拘ることはないと言う。